

## 普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和7年2月4日

実施場所：亙理農業改良普及センター会議室

### 1 検討内容

No	検討項目
1	令和6年度プロジェクト課題の実施状況について ① 名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展 ② 土地利用型経営体における施設園芸品目の定着 ③ 気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築 ④ さつまいもの産地育成
2	令和7年度普及指導計画(案)について

### 2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討課題1 (名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展)	4.4	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域で確認できる具体的な生産体制の構築を更に広く認識されていけるような支援・指導をお願いします。安定的な農業経営に向けて、ほ場整備の面的な工事区域のみならず、地域全体が発展していけるよう継続した支援をお願いします。</li><li>・長期間の取り組みとなるが、今年度の法人化計画の策定が完了したことは、評価します。</li><li>・担い手への集積について、集落の話し合いが定例に開催され集積方法のメリット及びデメリットが明確になったことや、活性化委員会役員が意見交換や勉強会を実施し意思疎通が図られていることを評価しました。</li><li>・営農形態が異なる地域での農地整備となり、地域特産品目の生産拡大を期待いたします。</li><li>・下余田の地権者と耕作者の皆さんと高柳の皆さんが、接点がないというところから話し合いの時間を作られたり、部</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・2か年プロジェクト課題として対象者を支援したことで、担い手部会が設立し、部会活動を通し、地権者と担い手の意思疎通が図られるようになりました。また、先進地視察や法人化の話合いを通じ、将来の法人の姿を明らかにすることができた。高収益作物についても、品目と栽培者が明確になりました。</li><li>・令和7年度から新規プロジェクト課題として、法人設立や担い手への集積・集約について、関係機関と連携を密にしなが、引き続き支援してまいります。</li></ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>会だよりを発行されたり、説明会が行われたりといろいろ準備をされている事が前進されているのだと感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の理解を得るために丁寧に向き合ってきたとことで評価したい。今後も最終的に動き出すまで見届ける必要があると考えます。枝豆も高収益になることを期待したい。</li> <li>活動は小規模や兼業農家が抱える課題への取り組みとして方向性は良い点です。農業を継続するには高収益作物に特化した収穫物にすべきであり計画として良いと考えます。一方、名取市の位置関係から農地転用のことも視野に入れながら普及計画・実行しなければならないと思慮します。（難しい課題でもあるが）農業を続けたい者と離農してもいい者、色々な考え方あると思われそうですが、農業を継続したい者のため支援を宜しく願いいたします。</li> </ul>	
<p>検討課題2 （土地利用型経営体における施設園芸品目の定着）について</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培マニュアルの完成は、今後の量的数値目標を大きく進まれることを期待します。流通量の少なさの解消は、難しい場面もあると思うが改善・改良の必要性を求めます。</li> <li>今後の栽培マニュアルの活用に期待します。</li> <li>「クールボジャ」の栽培マニュアルが完成し作業のポイントを取り組む体制が構築されたことと、収穫直前に病気が発生し原因を解明しかん水の提案を行った結果、収量及び品質の確保につながったことを評価します。</li> <li>クールボジャの生産継続できたことを評価いたします。</li> <li>いつの時代もベテランさんと若手の考えの違いや仕事に対する思いの違いがあると思います。今回、マニュアルが作成されたことから、幻のメロンの栽培の拡大を期待したいです。</li> <li>聞き取りによるマニュアルが完成したとことで評価したい。今後、さらに現場に則したものにブラッシュアップしていくべきと考えます。ブランディングが今後の課題と思います。</li> <li>施設有効利用を目指し安定的な収益確保を設定した事が良かったと思います。クールボジャメロン事業を引き継ぐためには今の時代ではマニュアル（栽培）は必要不可欠であり、また品質の基準を明確にすることは消費者への「お約束」として大変重要です。そのため、非破壊糖度計を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クールボジャの安定生産のためには栽培マニュアルを活用した技術の定着による安定生産を引き続き支援します。</li> <li>クールボジャを地域の名産品として定着させていくために、対象者の意向を踏まえながら関係機関と調整していきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>することも必然的なことと言えらると思います。二毛作的な取り組みでミニトマト等も収益向上に繋がる取組みは良い点と思います。</p>	
<p>検討課題3 （気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築）について</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者間交流の持続と技術指導の継続をより強固に続けて欲しい。日々の技術を理解しやすく継続していかれる点を評価します。</li> <li>・従来の慣行栽培から意識改革し、収量目標が達成したことは評価します。</li> <li>・2年連続の気候変動により、収量の減少と大幅な開花遅延や開花不揃いに対策に苦労したが、後継者への世代交代が進む中、栽培技術や管理方法を気候変動に合わせて再構築し年内収量が増えたことを評価します。</li> <li>・システム化された技術の再検証を今後ともよろしくお願ひします。</li> <li>・高温時の苗作りの対策についてのアドバイスは良いと思いました。ただ、害虫の発生に対する対策としての天敵の使用については高コストになり経営の負担になるのではないかと思いました。</li> <li>・気候変動対策はどの品目でも必須であり、試すには年に一度しかない時期を逃さないよう、継続が必要です。また途中経過でも広く情報を提供して（動機づけを図って）いてほしいです。</li> <li>・若手いちご生産者として就農する方が増加している状況で課題設定は評価します。昔ながらの栽培方法では、抱える課題に対して対応できない状況から、目線を変えた栽培方法にチャレンジすることは良いことだと思います。        収穫期間の延長は直接的に収益増加に繋がることから大変良いことであると思います。        天敵等を活用した総合的な病害虫管理の定着支援は私がいちご農業に携わっていないこともあり「天敵等を活用した」の意味が理解出来ませんでした。なお、病害虫の管理は当然と思いますが、このことから早期対応のマニュアルがあれば大変心強いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動の対策として得られた知見について、対象者に継続的に指導をしていくとともに、産地の他生産者に対しても機会をみて、定期的に情報提供・技術指導を行います。</li> <li>・天敵の導入等にあたっては、コストについても十分に検討していきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題4 （さつまいもの産地育成）について	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況における意外な部分も見受けられ、今後の技術的な指導に改良等が必要なことになるのか検討課題が垣間見え、継続的に助言等を図る必要が出ていると思います。</li> <li>・一部で収量の実績がまとまっていないことは残念でしたが、取り組みは評価します。</li> <li>・育苗、定植、収穫指導により収穫開始を早めることができた点、優良法人による収穫作業改善を指導するとともに選別等の人員配置の提案により収量の増加ができたことを評価します。</li> <li>・気象による収量への影響が大きく、生産に苦慮しており、生産安定への取組みを進めていただきたい。</li> <li>・さつまいもの定植時の苗の状態をいかにうまく準備できるかで収量に大きな影響があるのがわかっているのですから、その時期の作業人員の確保をする事も大事だと思います。</li> <li>・新たな品種の導入は大切であり、その特性を生かした（生のままだと期間が短いならば加工して価値を高める、など）流通や商品づくりを試して行ってほしいです。</li> <li>・収穫量向上と貯蔵管理の徹底は適切な視点と言えます。定植技術の改善は種芋自体が不均衡であることが原因であり、定植不良部分の手直しが必要となるが、手植えよりは作業労力は少ないと思います。 更に、キュアリング処理と貯蔵管理を数値的に管理すべきと思いますので、機会があれば相談指導に当たっていただければ存じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して安定した収量を確保するために各課題に対して継続的に支援をしていきます。</li> <li>・新たな品種の導入に際しても本課題で得られた知見を活かして指導していきます。</li> </ul>
令和7年度普及指導計画（案）について	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画は、地域計画の定着に根差したものと期待するとともに関係機関と協力を頂きながら進め、成果の還元を期待します。</li> <li>・下余田地区の取り組みは今後整備が進みえだまめ栽培の指導が本格化するので、期待しています。</li> <li>・次年度に向けてのプロジェクトについても引き続き普及指導願います。</li> <li>・活動課題の農家さんはもちろん他の農家さんも普及員の皆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域や農業者が抱えている課題の把握に努めながら、関係機関との連携を図り、普及指導計画の作成を行うとともに、活動で得られた成果は、講習会、普及センターだより、ホームページなどを活用し、情報発信に努めていきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>さんに相談したい事、聞いてみたい事があると思いますので是非お声掛けお願いしたいです。現に病害虫の発生的事など大変助けていただいております。ありがとうございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの団体を継続して支援することは大切と考えます。一方で、新たなニーズを拾ってほしいとも考えます。</li> </ul>	
その他	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後も様々な病害虫防除対策並びに補助事業に対する申請等を的確にご指導のほどよろしく申し上げます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後とも、関係機関と情報共有を図りながら、連携した支援に努めていきます。</li> </ul>